

## 6 ステークホルダーの主たる会合の結果

### (1) ユネスコスクール世界大会

#### ア. Student (高校生)フォーラム

11月5日(水)～7日(金) ホテルグランヴィア岡山

※原文が外国語の場合、要約は文科省仮訳

※詳細プログラム、挨拶文及び参加国・参加校は「第二部 参考資料 16、26～29、35」参照

#### (ア) 開会式

##### ① 山中伸一文部科学事務次官 挨拶 (要約)

ようこそ日本へ、岡山へいらっしゃいました。皆さんは単に学習者というだけでなく、活動者となっていかなければなりません。より豊かで、公正な世界の実現に取り組んでいてもらいたいと思っています。今までみなさんが学校で学んできたことと、今回日本で新たに学んだことをもって、これから2日間の会議に臨んでいただければと思います。皆さんがまとめる宣言文はあいち・なごやの世界会議でも共有されます。皆さんの柔軟な思考で、大人にはない視点から、斬新な宣言を取りまとめていただければと期待しています。



##### ② Anantha Kumar Duraiappah ユネスコ・マハトマ・ガンディ平和と持続可能な開発のための教育研究所所長 挨拶 (要約)

皆さんはポスト国連ESDの10年に向けての取組について提言することになっていますが、これは大変重要な取組です。ESDはユネスコスクールの重要な柱です。カリキュラムの中に地域、国際的な問題を盛り込むこと、教育、学習に参加的なスタイルで臨み、批判的思考や創造性を培うこと、また学校だけでなく社会を変えていくことが重要です。グローバル・アクション・プログラム(GAP)は教育者の能力開発を強化し、変革の担い手である皆さんユースたちに力を与えようというものです。ユネスコスクールの生徒、先生には家族、地域社会をも巻き込んで、全面的なアプローチで有効な実践を行い、意識啓蒙に活躍してほしいと思っています。皆さんのアイデアとアクションで、今後の取組においても主導的な役割を担って下さい。



##### ③ 大森雅夫 岡山市長 挨拶 (要約)

この会議を開催できたこと、またユネスコ、文部科学省その他御関係の皆様への御協力に御礼申し上げます。高校生フォーラムで策定する宣言は愛知の世界会議で共有されるとお聞きしています。このフォーラムが参加者間のパートナーシップを深め、より良い明日をつくるためのESDの活動が発展する実り多き場となることを願います。会議期間中には様々な歓迎イベントを計画していますので、岡山での良い思い出をつくっていただければ幸いです。この会議が世界的に、ユネスコスクールを促進していくための意義深い一歩となることを望んでいます。



#### ④ 高校生による開会宣言（要約）

- ・ 世界各地の仲間の皆さんの経験を生かして更に学習を進め、帰国後ここで学んだことを他の人に伝えます。
- ・ 今回の経験は、帰国後私たちが友人や社会に刺激を与え、世界全体の認識を高めるために役立つでしょう。
- ・ 私たちが作る持続可能な将来のビジョンは、私たち全員のためのビジョンとして自信を持って世界に発信できるものにならなくてはなりません。
- ・ 私たちがそれぞれの経験を語り合い、私たちにとって身近な、切実な問題に的を絞って議論し、未来に向かってそのビジョンを実現させる手立てを導き出せることを願います。



#### (イ) プレゼンテーション

各チームが、「学生が自分たちの地域、国、学校で気づいた持続可能な社会への課題（The challenges of a sustainable society that students have noticed in their region, country or school）」をテーマに作成した資料に基づき、各国や学校で取り組んでいる ESD 活動について、プレゼンテーションを行いました。



#### (ウ) ディスカッション A

テーマ: 日常生活や社会において、持続可能性を阻害する要素は何か。

(What factors do you believe obstruct sustainability in everyday life and society?)

##### ○ 主な意見

- ・ 持続可能な開発への関心や意識の低さ。
- ・ 関心や意識を高めるための教育の欠如。教員への教育も必要。
- ・ 過剰消費。
- ・ 極端な貧困。
- ・ 地域でのコミュニケーションの希薄化。



#### (エ) ディスカッション B

テーマ: 持続可能性を推進する際に、何が重要か。

(What is important when promoting sustainability?)

##### ○ 主な意見

- ・ 学校における持続可能性についての教育・学習。
- ・ 協力すること、団結すること。
- ・ 正しい知識を持ち、お互いに尊重すること。
- ・ 平和であること。
- ・ 自由であること。
- ・ 社会、政府からの援助。



## (オ) 全体会

### ① 赤池誠章文部科学大臣政務官 挨拶（要約）

昨日の各チームのプレゼンテーションでは、遠い国にも同じ問題があること、少しの行動が世界中に影響を与えることなど、認識を共有することによって身近な問題とグローバルな問題がつながっていることを実感したのではないのでしょうか。世界中の人々のつながりを意識して、相互に協力をしてはじめて、「持続可能な社会」が構築できるのだということをこのフォーラムで学んでほしいと思います。皆さんがどのような分野でどのような進路を取ったとしても、ユネスコスクールで学んだESDの精神をしっかり守り、育てて、実践し続けてください。



### ② イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長 挨拶（要約）

私たちは皆さんのようなユースの声を本当に大切に思っています。世界の将来はまさに皆さんが形成していくからです。ユネスコスクールは181カ国1万校以上が参加しており、これは大きな成果だと思っています。私にとって、ユネスコスクールが形成するネットワークは、新しい世界地図を体現するものです。それは同じ世界に住む市民として価値や夢を共有し、国境、文化、性別の違いを超えた地図です。国連ESDの10年は2005年にスタートしました。日本政府が強く提案して下さったものであり、日本に対して心から賛辞を述べたいと思います。ESDは私たち全員の責任であり、皆さん一人一人がリーダーとなり、変革をもたらしていく担い手となるのです。そして私たちはこの世界を将来にわたって守り慈しんでいかななくてはなりません。ぜひこれからも、持続可能な社会、平和、そしてお互いを思いやる心を持って、為すべきと思うことを続けてください。教育、ESDを語る時、若い方々は明日のリーダーではありません。皆さんこそが今日のリーダーなのです。



### ③ 全体ディスカッション

テーマ：持続可能な社会や持続可能な未来を創るために、ユネスコスクール(ASPnet)の高校生として共に目指すべきものは何か。

(As ASPnet students, what should we aim for together to achieve a sustainable society and a sustainable future?)

#### ○ 主な意見

- ・ それぞれの地域でコミュニケーションをとること。高校生がコミュニティと協力関係を築くこと。
- ・ 政策決定者、教員に対して持続可能な社会、経済を構築するよう、カリキュラムにESDを活かすよう働きかけること。
- ・ 他の国や文化、価値観の違いに寛容になること。
- ・ 自らの発言、行動が大きな力になることを自覚し、自らの意識を変えること。
- ・ 持続可能な社会が将来にとって必要であるという意識を皆に啓発すること。また興味を







九州・ 四国	福岡県立武蔵台高等学校 福岡県立城南高等学校	【参加チーム】 スペイン、チュニジア、ウルグアイ、パキスタン 授業参観、体験授業(書道・茶道)、交流会、太宰府・福岡タワー見学、夕食会
岡山	岡山県立岡山一宮高等学校	【参加チーム】 メキシコ 11/4 フライトキャンセルにより来日が遅延したため、地域交流会中止 11/5 JFEスチール工場見学、鷲羽山展望台見学・昼食、瀬戸大橋見学、与島パーキングエリア散策
	岡山学芸館高等学校	【参加チーム】 ルーマニア 11/4 曹源寺見学及び体験(座禅体験と外国人僧との交流)、学校にて英語科生徒との異文化交流、お弁当交流会、西大寺小学校出前授業参加、茶道・和太鼓・琉球三味線等の体験交流、岡山市主催歓迎夕食会 11/5 ジーンズ工場見学、藍染め体験、ランチ交流会、授業参観
	清心中学校・清心女子高等学校	【参加チーム】 フィリピン 11/4 授業参観、ランチ交流会、文化交流、校内歓迎会、岡山市主催歓迎夕食会 11/5 ノートルダム清心女子大学附属小学校授業参観・交流、倉敷美観地区散策、大原美術館見学、倉敷駅北大型商業施設等散策
	岡山県立倉敷商業高等学校	【参加チーム】 ウガンダ 11/4 歓迎会、授業見学、昼食(お弁当交流会)、交流会、意見交換会、ティータイム、部活動見学、岡山市主催歓迎夕食会 11/5 倉敷駅北大型商業施設・アウトレットモール散策、倉敷美観地区で昼食、倉敷美観地区散策、大原美術館見学

## イ. 教員フォーラム

11月7日(金) ホテルグランヴィア岡山

※原文が外国語の場合、要約は文科省仮訳

※詳細プログラム、出席者等は「第二部 参考資料 16、35」参照

(ア) 岩本渉 文部科学省参与 挨拶(要約)

ESDの推進のために、日本ユネスコ国内委員会では2年前にユネスコスクールの活動の質の向上を目指してガイドラインを作成し、本年3月には地域全体のESDの教育力向上の見地から地域コンソーシアムを作ろうという提言も行いましたが、その中で教員の果たす役割は非常に重要です。また、グローバル・アクション・プログラム(GAP)も教育者に焦点を当てています。このフォーラムでは、各国のユネスコスクールの先生方に、ESDの経験を世界各国の同僚と共有していただくとともに、どのように2014年以降のESD推進のシナリオに貢献できるか、子どもたち、地域社会、政策決定者たちとどのように協力していけるかなどについて御議論いただきたいと思っております。



(イ) チェン・タン ユネスコ教育担当事務局長補 挨拶(要約)

ESDは教育の内容と方法論の両方が重要で、ユネスコはESDを実践する上で教員の役割を大変重視しています。今日に至るESDの成果も、教員の協力・貢献なしには実現できなかったといえます。ESDを世界全体で実施するためには、教員への導入研修と継続的なスキル開発プログラムが必要です。だからこそグローバル・アクション・プログラム(GAP)においても、教育者の能力向上を重要な目標としています。このフォーラムの目的は単に経験を共有し、国際的なパートナーシップを深めることだけではなく、ESDに教員の視点や意見を取り込んでいくことにあります。



(ウ) グループワーク

40名の教員が、五つのグループに分かれ、これまで日本でユネスコスクールの支援にあたってきたファシリテーター5名のもと、グループワークを行いました。

テーマ1: ESDの成果を振り返る(Reviewing ESD achievements)

※ 特に生徒の変容に焦点をあてて実施

テーマ2: 2014年以降のESD推進における教員の役割、ユネスコスクールの役割(Role and actions of teachers and the ASPnet to promote ESD beyond 2014)



(エ) 全体会合

全体ファシリテーターである宮城教育大学 市瀬教授の進行のもと、各グループが順次、意見交換の成果を発表しました。「テーマ1」については、生徒の態度の変容としては、責任感の増大、リーダーシップ、異文化・文化の多様性への理解の増大などが挙げられました。行動の変容では、チームワークやボランティア活動、コミュニティとの関わり、責任ある消費行動等が挙げられました。これらの変容の要因として、他校や他国とのパートナーシップ等が挙げられ、生徒を学習過程に巻き込み議論を促進することの重要性が指摘されました。「テーマ2」については、教員の役割としては、パートナーシップやコミュニティとの協調、モニタリング評価への関与等が挙げられました。また、生徒中心の学びにおけるファシリテーターとしての教員の役割が確認されました。あるべき教員の姿として、自らが教えている事の実践、問題の解決策を探り実践的であること、教員集団としてファシリテーター・コーディネーターであること等の意見がありました。今後の課題としては、十分な時間の確保、ユネスコや各国政府がESDを重要視すること、教員の能力向上や様々な取組間の調整をすることなどが挙げられました。



(オ) ユネスコ講評(要約)(リビア・サルダリ ユネスコ教育局ユネスコスクールネットワーク国際コーディネーション フォーカルポイント)

ユネスコスクールは、ユネスコの価値観を世界に広め、革新的な教育手法の開発にも関与し、ESDを促進します。リソースは限られ、障壁は常にありますが、一緒に道を見つけていくこと、ESDへの貢献を続けていくことが重要です。国連ESDの10年は今年が最終年ですが、



これから5年でグローバル・アクション・プログラム(GAP)を実施していきます。関心がある方はぜひおっしゃってください。どのようにしてこれを実施できるか、一緒に考えていきましょう。本日の教員フォーラムは非常に生産性の高いものだったと思います。既存のパートナーシップを強化することができました。皆さんに新たなアイデアなどをフィードバックできればと思っています。



## ウ. 第6回ユネスコスクール全国大会

11月8日(土) 国立大学法人岡山大学 津島キャンパス内

※詳細プログラム、挨拶文は「第二部 参考資料 17、30～31」参照

### (ア) 開会式

#### ① 藤井基之 文部科学副大臣 挨拶 (要約)

ようこそ岡山へお越しいただきました。主催者を代表しまして、心から歓迎を申し上げます。今日、地球には、将来的には持続不可能なのではないかと思われる課題や問題が山積しておりますが、未来の予測が不可能な時代だからこそ、課題を見出し、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付けることを目標とするESDがこれからの教育にとってますます重要になってくるのではないかと考えます。わが国のESDを率先して引率してこられましたユネスコスクールこそが地球の将来を担い、持続可能な社会を実現していくために必要な人材を育ててくれる場であると確信しています。本日お集りの皆様が、これまでユネスコスクールにおいて培われました貴重な経験を多くの参加者の方々と共有していただくとともに、皆様方の学校と世界各国から参加いただいた先生方の学校との今後の交流に繋がっていくことを、心から期待しています。



#### ② 安西祐一郎 日本ユネスコ国内委員会会長 挨拶 (要約)

ユネスコスクール、またESDの活動に日頃より御尽力をいただき感謝申し上げます。日本ユネスコ国内委員会といたしましても、この世界会議における10年間の総括、また2015年以降の方策について活発な議論の成果を踏まえて、ESDの取組を一層進化するために、努力をしていきたいと考えております。わが国では、ユネスコスクールを「ESDの推進拠点」と位置付け、ESDの普及、促進に取り組み、現在、807校に達しております。今年3月には日本ユネスコ国内委員会でもまとめました多様化の時代におけるユネスコ活動の活性化についての提言、2015年以降のESDの推進についての方向性を示しており、ユネスコスクール以外の学校でのESDの推進も求めており、教育現場等々だけではなく、地域社会、大学、民間企業、NPO等々幅広いステークホルダーを巻き込み、社会全体として持続可能な社会の担い手づくりに取り組んでいく体制を整備していくことが肝心だと考えております。この大会が、わが国のユネスコスクールのまた新たな出発点となりますことを祈念申し上げます。



### ③ 大森雅夫 岡山市長 挨拶（要約）

全国各地からようこそ岡山にいらっしゃいました。市民を代表して歓迎申し上げます。岡山市では、先月、公民館-CLC 会議があり、この 10 年の課題と今後の取組について、議論が活発に交わされました。中でも岡山の話では、特に公民館、そしてユネスコスクールを推進拠点とする小さな地域単位での活動といった点を評価していただき、ありがたく思っております。このユネスコスクールの大会でも、今までの課題をあぶり出し、今後の 10 年間の活動について、議論を深めていただきたいと思います。また、岡山市はこの大会に合わせて様々なイベントや催しを用意しておりますので、御堪能いただければと思います。ユネスコスクールが ESD の活動において、更に発展することを祈念して御挨拶とさせていただきます。



### ④ ESD メッセージソング「僕らは大きな世界の一粒の命」歌唱 ： 白井貴子 ESD オフィシャルサポーター



### (イ) ESD 大賞授賞式

- ・ 文部科学大臣賞
- ・ ユネスコスクール最優秀賞
- ・ 小学校賞
- ・ 中学校賞
- ・ 高等学校賞
- ・ 審査委員特別賞
- ・ ネスレ日本ヘルシーキッズ賞

岡山県岡山市立京山中学校  
広島大学附属中・高等学校  
愛知県岡崎市立男川小学校  
東京都多摩市立東愛宕中学校  
筑波大学附属坂戸高等学校  
東京都小笠原村立小笠原小学校  
群馬県藤岡市立美九里西小学校  
愛知県岡崎市立男川小学校



全体の様子



授賞の様子



(ウ) テーマ別交流研修会

	都道府県	事例発表	テーマ
1	宮城県	気仙沼市立唐桑小学校	「海に親しみ、人とかわり、海と共に生きる環境教育の推進」ー牡蠣養殖体験活動を通してー
2	宮城県	気仙沼市立面瀬小学校	人とかわり自然とふれあいながら「ふるさと気仙沼」への思いや考えを深め、表現できる児童の育成 ～「書く活動」に重点を置いた生活科・総合的な学習の時間の指導を通して～
3	東京都	江東区立八名川小学校	ESD 実践を通じたグローバル学力の育成 ～江戸・深川の歴史を調べ、この町を語ろう～
4	神奈川県	横浜市立永田台小学校	持続可能な教育を実現する学校づくり ～サステナブルスクールを志向する環境デザイン～
5	東京都	稲城市立稲城第二小学校	地域と紡ぐ坂浜里山プロジェクト ～未来を創る人材づくり～
6	東京都	多摩市立多摩第一小学校	ESD で育てる学力 児童の問題解決能力、協力する態度と活動意欲について
7	群馬県	藤岡市立美九里西小学校	ふるさと「みくり」再発見！ ～「高山社学」の推進を通して～
8	愛知県	岡崎市立男川小学校	理科学習から展開するESD ～小学校3年生「ふるさと男川の昆虫博士になろう」の実践を通して～
9	奈良県	奈良市立済美小学校	未来に残したい「美しい奈良」の風景
10	岡山県	岡山市立第三藤田小学校	人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、主体的に関わろうとする子どもの育成
11	福岡県	大牟田市立吉野小学校	吉野小桜プロジェクト (地域とつながり、関わりを深めるESD)
12	宮城県	気仙沼市立階上中学校	「私たちは未来の防災戦士」 ～『自助・共助・公助』の学びと『つながり』の大切さを通して～
13	東京都	大田区立大森第六中学校	未来につなぐ地域連携教育
14	静岡県	伊豆市立天城中学校	「天城学習」を通して持続可能な社会を築く大人になろう～ ～ESD で自尊感情を高め、21 世紀を生きぬく学びを～

15	大阪府	豊中市立第二中学校 豊中市教育委員会	3か国 こども会議を通じた生徒の変容 ～フレンドシップ協働学習プログラムによる身近な環境問題へのアプローチ～
16	奈良県	奈良教育大学 附属中学校	「ホールスクールアプローチ」で取り組む ESD ～関係性・当事者性・未来志向性をキーワードに～
17	岡山県	岡山市立京山中学校	京山から世界の見える学校へ ～グローバルな視点を活かした授業・活動で育む思いやり・夢・志 共育～
18	北海道	北海道斜里高等学校	「世界自然遺産・知床」等地域をフィールドとした ESD 活動
19	秋田県	秋田市立秋田商業高等学校	商業高校の特色を生かした環境教育
20	埼玉県	筑波大学附属坂戸高等学校	アジアの高校生とともに学びあう ESD 実践 －総合学科高校の特性と海外交流校ネットワークを生かして－
21	滋賀県	立命館守山高等学校	国際協力、想いをカタチに －海外研修バンコクコースの取組を通じて－
22	広島県	広島大学附属中・高等学校	教師が「つながる」・教育活動を「つなげる」 －ユネスコスクールとして取り組んだ「ESD の 10 年」－



各研修会の様子

## (エ) 学校による ESD 実践事例のポスター発表

### ① ESD 大賞受賞校

東京都江東区立八名川小学校、愛知県知多郡東浦町立緒川小学校、奈良県奈良市立済美小学校、広島県福山市立駅家西小学校、宮城県気仙沼市立唐桑中学校、東京都大田区立大森第六中学校、東京都多摩市立東愛宕中学校、岡山県岡山市立京山中学校、埼玉県筑波大学附属坂戸高等学校、愛知県立豊田東高等学校、岡山県立和気閑谷高等学校

### ② 環境

北海道石狩市立生振小学校、宮城県大崎市立大貫小学校、三重県名張市立薦原小学校、岡山県岡山市立伊島小学校、広島県大竹市立栗谷小学校、愛知県豊田市立藤岡南中学校、愛知県岡崎市立新香山中学校、愛知県名古屋市立名古屋商業高等学校、兵庫県兵

庫県立北須磨高等学校、徳島県立徳島科学技術高等学校、フィリピン Philippine High School for the Arts、韓国 Dongwon High School、インドネシア SMP Amalina Islamic Junior High School、インドネシア SMA Negeri 10 Malang

③ 国際理解

東京都多摩市立南鶴牧小学校、大阪府豊中市立上野小学校、大阪府豊中市立第二中学校、沖縄県北谷町立北谷中学校、北海道札幌平岸高等学校、北海道海星学院高等学校、東京都立三田高等学校、神奈川県立有馬高等学校、愛知県東邦高等学校、岡山県立岡山一宮高等学校、埼玉県国際学院中学校高等学校、愛知県名古屋国際中学校・高等学校、宮城県聖ウルスラ学院英智小・中学校

④ 地域の自然

東京都稲城市立稲城第二小学校、東京都多摩市立豊ヶ丘小学校、東京都多摩市立連光寺小学校、岡山県岡山市立津島小学校、福岡県大牟田市立吉野小学校、福井県敦賀気比高等学校附属中学校、北海道斜里高等学校、島根県立島根中央高等学校

⑤ 地域連携

宮城県石巻市立鮎川小学校、愛知県刈谷市立富士松南小学校、岡山県岡山市立第三藤田小学校、愛媛県新居浜市立多喜浜小学校、長野県信州大学教育学部附属松本中学校、石川県金沢市立泉中学校、三重県国立大学法人三重大学教育学部附属中学校、奈良県奈良市立二名中学校、愛知県岡崎市立竜南中学校、佐賀県武雄市立武雄北中学校、大阪府立北摂つばさ高等学校、岡山県立林野高等学校、奈良県奈良市立富雄第三小中学校

⑥ 学校経営

神奈川県横浜市立永田台小学校、愛知県岡崎市立梅園小学校、奈良県奈良教育大学附属中学校、静岡県立浜松城北工業高等学校、愛知県名古屋市立山田高等学校、兵庫県神戸大学附属中等教育学校

⑦ その他

徳島県ナーサリー富田幼稚園、大阪府 NPO 法人箕面こどもの森学園、神奈川県横浜国立大学、奈良県奈良教育大学、東京都 ESD 多摩地区コンソーシアム、福岡県大牟田市教育委員会



展示の様子

(オ) ESD 推進企業・団体によるプレゼンテーション

- カシオ計算機株式会社
- ネスレ日本株式会社
- ユネスコキッズ supported by NTT ドコモ
- 全国農業協同組合連合会
- 株式会社ユニクロ
- Rei Foundation Limited





(カ) 第6回ユネスコスクール全国大会 特別講演会・交流会

11月7日(金)18時～19時 岡山プラザホテル

① 安西祐一郎日本ユネスコ国内委員会会長 講演会「未来に生きる子どもたちのために」(要約)

来年は戦後70年を迎えます。子どもたちには、未来のニッポンを背負い、世界で活躍してほしい、そして幸せに生きてほしいという思いがあります。特にESDに取り組んでいる学校の子どもたちには、グローバルな時代にリーダーシップを発揮し、またESDに取り組む学校が、地域や世界で活躍する子どもを育む場であってほしいと願っています。こうした思いから、学校教育の現状と課題、高等学校と大学の接続の問題、ESDとユネスコスクール等についてお話しします。

このグローバルな時代には、情報を吟味する力、合理的思考力、臨機応変力、そして特に「主体性」が不可欠です。このような教育は、ユネスコスクールやESDの活動においては、すでに進めていただけていますが、今後更にリードしていただくことが、皆様の預かっておられる子どもたちだけでなく、日本中の子どもたちを幸せにする道だと思います。



② 交流会

11月7日(金)19時15分～20時45分 岡山プラザホテル



前川喜平文部科学審議官 開会挨拶



山脇健岡山市教育長 来賓挨拶



伊藤史恵岡山県教育庁教育次長 乾杯

## (2) ユネスコ ESD ユース・コンファレンス

※詳細プログラム、挨拶文及び出席者は「第二部 参考資料 18、32～33、36」参照

※原文が外国語の場合、要約は文科省仮訳

### ア. プレ・コンファレンス

11月6日(木) 14:00～16:30 岡山国際交流センター

参加者による自己紹介や、ESDのビジョンの共有など、翌日のコンファレンスに向けたオリエンテーションが行われました。



### イ. コンファレンス

11月7日(金) 9時～17時30分 岡山国際交流センター

(ア) 赤池誠章文部科学大臣政務官 開会全体会合挨拶(要約)

本会議参加者を募った結果、180か国から5,038人の応募がありました。これほど多くのESDに取り組む志を同じくするユースが世界中で活動していること、ESD活動について情報交換の場を欲していたことなどを実感しました。本コンファレンスではユース・



ステートメントを取りまとめ、世界に発信するとお聞きしていますが、それぞれの分野におけるESD活動のプロフェッショナルが取りまとめるステートメントに期待しています。あいち・なごやでの「ESDに関するユネスコ世界会議」においても、各個人がこの岡山での会議の成果を積極的に世界会議参加者にインプットしていただくようお願いいたします。ユネスコはユースを重要なステークホルダーのひとつとして明確に位置付けており、世界会議においても、また世界会議終了後も、ESDの重要な牽引役として皆様が活躍することを期待しています。

(イ) イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長 開会全体会合 挨拶 (要約)

ユースの代表の皆さん、今日、ここにお越しいただいたことに感謝申し上げます。皆さんは180か国の5,000人から選ばれたリーダーです。皆さんはESDに関して優れた実績があり、リーダーシップにおいても、コミットメントにおいても、ビジョンにおいても抜きんできています。皆にとつてのより良い未来のビジョンがかつてこれほど重要だったことはありません。この地球は今、大きな圧力下にあります。持続可能な将来を形づくるためには、私たちは、考え方、行動の仕方などを変えていかなければなりません。そのために教育は欠かせません。教育は新しい価値、能力、知識を形づくります。私が皆さんに申し上げたいことは、私たちが待たないで下さい、ということです。皆さんの生活、コミュニティ、国に変化を生じさせるために皆さんが世界を導いて下さい。ユネスコは全力で皆さんをサポートすると約束します。



(ウ) サリー・アスカー インサイト・サステナビリティ ディレクター/ESD ユネスコ世界会議国際運営委員 基調講演 (要約)

ESDは単なる教育の一要素ではなく、教育の目的とならなければなりません。教育は学習者が持続可能な開発に貢献し、世界規模の課題と戦えるようにしなければなりません。教育は持続可能な開発の達成に不可欠な要素なのです。今こそ、指導者層に世界的レベルでESDを支持してもらい、教育アジェンダと持続可能な開発アジェンダの両方にESDを取り入れることによって、持続可能な開発に関するリテラシーを持ってもらう必要があります。私たちは2015年以降も物事の見方を変える努力を続け、ESDの新たな展望をつくり出す必要があります。ESDというラベルに執着せず、ESDが推進する目標や結果について考えて下さい。またユースはステークホルダーとして含まれていますが、それは世界の人口の半分が30歳未満で、皆さんが明日のリーダーだからです。私達は、教育者として、市民が物事の見方や行動を、問題解決から可能性へ、現行モデルの調整から持続可能な未来のための新たなビジョンの創造へ、コスト中心から価値中心へ、変化への抵抗から変化の受容へ等と移行する手助けをする必要があります。未来は皆さんが形づくり、インスピレーションを与え、導くものです。



(エ) Anantha Kumar Duraiappah ユネスコ・マハトマ・ガンディ平和と持続可能な開発のための教育研究所所長 講演 (要約)

皆さんは30億人のユースの代表で、その責任の大きさは計りしれません。我々はSNS上でグローバル・シティズンシップのキャンペーンを始めました。自撮りして、ハッシュタグを付けて送って下さい。我々はそれらを我々のウェブサイト上でまとめます。また、我々はYESPeaceというネットワークを立ち上げます。



我々のキャンペーンは次の10年のためではなく、次の50年を見据えています。それは過去200年で築かれた人々の考え方を変えるのに必要な期間だからです。

(オ) 分科会「2015年以降ESDの取組をどのように推進・拡大するか」

① ディスカッション1: 政策的支援

○ 主な意見

- ・ 政策立案や実施へのユースの参加は保証されるべき。
- ・ 意思決定過程は根拠に基づくモニタリングと批評的な評価に基づくべき。
- ・ ユースや社会的に不利な立場に置かれている人々が意見を表明し、意思決定過程に参加できる環境を整えることが重要。



② ディスカッション2: 機関包括型アプローチ

○ 主な意見

- ・ ユースがリーダーシップを発揮できるよう、教育機関は制度上のサポート、資源、正当な評価を与えるべき。それには権限、資金、オフィススペースの提供も含む。
- ・ ESDの取組は、内部と外部で相乗効果を生み出すことが重要。これはあらゆる人々を巻き込むこと、地域や部門の垣根を越え組み込む努力、生徒とスタッフ及び外部の人材の協力の場所をつくりだすことを意味する。
- ・ 教育機関は自らが説いていることを実践しなければならない。換言すれば、教育機関の運営、政策、調達もまた持続可能な必要がある。
- ・ 機関包括型アプローチは、大学や学校についてだけではない。内閣や労働組合などあらゆる機関にESDリーダーが存在するべき。



③ ディスカッション3: 教育者・トレーナー

○ 主な意見

- ・ 我々はトピックに基づく教育から過程に基づく教育に、そしてテストに基づいた評価から進歩に基づいた評価にシフトする必要がある。ユースが、この情報量の多い時代に前進するために必要なコミュニケーション力と協力する力と同時に、批判的な思考力と分析的な能力を発達させることができるように。
- ・ 我々は、地域の革新的なESDへの取組を長期的にサポートするために、ステークホルダーの相互の協力を促進するような資金調達の仕組みを創設しなければならない。



④ ディスカッション4: ユースのための革新的な学び

○ 主な意見

- ・ 革新的な学びは伝統的な知識を、“3H 学習アプローチ(頭(head)、心(heart)、手(hands))”



を用いたもっと生き生きとした学習方法へ変えること。

- ・ e ラーニング等の革新的な学びは、伝統的で一方向的な教育システムから、単に知識を得るだけでなく、全人格的に関わる協同的で自己変革を促す教育システムへの移り変わりを促進するもの。



#### ⑤ ディスカッション 5: 地域コミュニティ

##### ○ 主な意見

- ・ ICT に基づいたコミュニティ・ラーニングの取組は、教育にアクセスできない人々にたどり着き、彼らに基礎的な教育や ESD を提供するための効果的な方法。
- ・ ESD のプログラムはコミュニティのニーズ、関心、伝統的知識に沿うため、コミュニティに根ざしたアプローチをとるべき。プログラムは多分野にまたがり、フォーマル教育と伝統的な教育法を関連付けなければならない。プログラムが成功すれば、相乗的効果や持続可能な暮らし、当事者意識を育むことができる。



#### ⑥ ディスカッション 6: 持続可能性に関する課題

##### ○ 主な意見

- ・ 開発機関、NGO 等は初めからステークホルダーをプロジェクト設計、意思決定、実施、参加型評価に最初から加える必要がある。コミュニティで尊敬されている人、例えば長老や地域のリーダーは地域の市民とコミュニケーションを図り、彼らが受容できる方法で情報とアイデアを届けるのに最も良い立場にある。また、コンセプトと情報を容易に理解できる言語に翻訳することが重要。
- ・ 我々は長期の持続可能性と地域のレジリエンス(強靱性)を確保し、将来の資源配分の指標となり、これを奨励する十分な評価フレームワークと技術的なツールを開発する必要がある。



#### ⑦ ディスカッション 7: ソーシャル・アントレプレナーシップ(社会起業)

##### ○ 主な意見

- ・ 政府、民間部門、市民社会を含むベンチャー投資家同士のつながりを強化し、彼らの更なるコミットメントを促すことが重要。
- ・ ユネスコとその加盟各国は特にユースの起業家精神を鼓舞する政策や協定を策定する共同の努力を行うべき。



⑧ ディスカッション 8: 女性や社会的に不利な立場に置かれている人々

○ 主な意見

- ・ 我々はあらゆる差別をなくし、有益な伝統文化を促進することによって、土着の知識が ESD で取り扱われ、大切にされるようにしなければならない。
- ・ 女性たちとこれまで軽視されてきたグループが持続可能な将来を達成できるよう、ESD はフォーマル教育、インフォーマル教育、ノンフォーマル教育のカリキュラムに組み込まれるべき。



(カ) 全体会

分科会での議論を踏まえ、ユースが持続可能な開発に向けて、同世代のユースを変革の担い手としてどのように動員していくかについて更に議論を深めました。

テーマ 1: 私達は持続可能な開発のための変革の推進者として、同世代のユースをいかに動員し、支援することができるだろうか。(How can we empower and mobilize our own generation as change agents for sustainable development?)



○ 主な意見

- ・ まだ ESD に関係していないユースをターゲットにすること。いかに ESD が自分たちの生活に影響しているかを示し、持続可能な開発はすべての人の責任であることを教え込むこと。これを幼い子供達から始めることが特に重要。
- ・ 経験的で革新的な教育を提供すること。安全に意見交換と自己表現できる場をつくりだすこと。
- ・ 映画、音楽、写真や芸術など様々なストーリーテリング法を利用し、ESD を魅力的で興味深いものとする方法をみつけること。
- ・ 成功を認め、称えること。
- ・ 学際的で分野の垣根を越えた対話と協力を奨励すること。

テーマ 2: 私達は、世界的な ESD に関するユースのムーブメントの推進においてより大きな影響を生み出すために、いかに協働することができるだろうか。(How can we collaborate as a group to generate a bigger impact in promoting a global ESD youth movement?)

○ 主な意見

- ・ このユネスコ ESD ユース・コンファレンスの経験とユース・ステートメントを仲間やメディアと共有すること。
- ・ 今後も交流を続け、経験、知識、優良実践事例、ネットワークの共有や共同プロジェクトの開発を行うため、ソーシャルメディアや新しい技術を活用したり、オンライン・プラットフォームを設けること。
- ・ 秩序だったアクセスしやすい方法でリソースを共有し、問題と解決策の「バンク」を創設すること。
- ・ ESD のアジェンダを促進する地域のネットワークのハブを設立すること。



(キ) チェン・タン ユネスコ教育担当事務局長補 挨拶 (要約)

今日の会議は非常に活発な議論が交わされ、多くのアイデアが得られるものだったとお聞きしています。ユネスコは、将来の世界を代表するユースがリーダーだと思っています。皆さんの声は世界の将来にとって重要であるからです。皆さんが牽引役なのです。ユネスコはここでこのような機会を持ち、未来のために、皆さんの声を、ビジョンを、戦略を、希望を聞くことができ大変嬉しく思います。本日のコンファレンスは閉会しますが、私たちはここで終わるわけではありません。皆さんはお互いを知り、連絡を取り、様々な国々の人々と手を組み、皆さん自身の国々で、学校で、社会で ESD を推し進めて下さい。なぜなら、皆さんは明日のリーダーになるのですから。



(ク) 岩本涉文部科学省参与 挨拶 (要約)

持続可能性は、本来的に世代を越えた問題を意味しています。したがって、世代間の協力が必要な ESD においては、とりわけユースの役割が非常に重要です。人間にとって、生物にとって、あるいは地球にとって重要なメッセージを将来の世代に伝える必要があるのです。ESD は多様な主体の協力を必要としています。特にユースのアントレプレナーシップ、スキルなどの取組を含む地域の教育力を必要としています。その意味でもユースの役割は重要です。あいち・なごやの世界会議では本コンファレンスの内容を発信していただくとともに、その成果を自国に持ち帰り、議論を続けてください。



**(3) 持続可能な開発のための教育に関する拠点 (RCE\*) の会議 (第 9 回グローバル RCE 会議)**

※Regional Centres of Expertise on Education for Sustainable Development の略

11月4日(火)～7日(金) 岡山コンベンションセンター

※詳細プログラム、は「第二部 参考資料 19～20」参照

**ア. 大陸別課題 (アフリカ、北米及び中南米、ヨーロッパ、アジア・太平洋)**

各大陸別に RCE 間で抱えている共通課題を認識し、解決策について議論がなされました。各 RCE の活動をどのように大陸レベルの議論に反映させていくか、政策へどのように影響を与えられるのか、アドボカシーの重要性に関する議論が活発になされました。また RCE の活動について国内での周知、広報が足りない点や RCE の活動の評価方法の必要性に関しても指摘されました。



**イ. 戦略的課題 (能力開発、政策推進、モニタリングと評価、ガバナンスなど)**

会議では RCE ネットワークを戦略的かつ効果的に運営していく上で重要な課題について議論がなされました。多様なステークホルダーから成る各 RCE において、メンバー間の情報共有や円滑なコミュニケーションを取ることに難しさや活動資金の確保に関する課題が共有されました。また政策提言 (アドボカシー) では持続可能な開発に関する国際的な議論へ RCE の提言を反映すると同時に国内で展開されている





議論にも関わることの重要性が指摘されました。またRCEの活動の評価に関しては、活動の記録をとることの必要性和、RCEが自己評価できるような資料を作成していくことの必要性が指摘されました。

**ウ. テーマ別課題 (気候変動、持続可能な生産と消費、生物多様性、高等教育、ユースの参加等)**

活動テーマ別に分かれ、RCE間で課題と経験の共有がなされました。グローバルRCE会議での議論を基に各課題別にワークショップや会合など議論の場を設けることの必要性、好事例の共有の必要性、コミュニティレベルで活動しているRCEの経験をグローバルなレベルでの議論に反映させていくことの難しさなど、様々な問題が共有されました。



**エ. 政策決定者による円卓討議**

大森雅夫 岡山市長、モニカ・マンソン氏(RCE スコーネ/スウェーデン・マルメ市)、関庄一郎 環境省地球環境審議官、アユブ・マチャリア・ンダルガ氏(RCE ナイロビ広域圏/ケニア国家環境管理局(NEMA))、Mr. Anantha Kumar Duraiappah (ユネスコ・マハトマ・ガンディ平和と持続可能な開発のための教育研究所)をスピーカーに迎え、政策においてESDをどのように反映させていくかについて議論がなされました。コミュニティレベルでのESDの実施から政策にESDの要素を反映させていくには、民間セクター、フォーマル教育、ノンフォーマル教育、大学、研究機関、NGOなど様々なステークホルダーを巻き込むことが重要だと指摘されました。またRCEが主要な国際会議に出席して、議論に貢献していく形で国際的な議論に影響を与えることができるとの指摘もありました。さらに、政策が実際にコミュニティレベルでの活動に反映されていくことも重要で、ESDが学校教育の中でまだ十分にに取り込まれていないことも問題として指摘されました。



**(4) ESDに関するユネスコ世界会議岡山支援実行委員会等主催 オープニングセレモニー**

※原文が外国語の場合、要約は文科省仮訳

11月6日(木) 18時~19時40分 オープニングセレモニー 岡山シンフォニーホール  
20時~21時 交流会 同上

**ア. 目的**

「ESDウィーク」のオープニングとして、会議参加者をはじめ、ESDの実践者や地元関係者が一堂に会し、世界会議の成功と2014年以降のESDの発展に向けて思いを一つにすることを目指して開催しました。

**イ. 主催**

ESDに関するユネスコ世界会議岡山支援実行委員会、岡山市



## ウ. 参加者

約 1,300 人

主な出席者として、赤池文部科学大臣政務官、高橋環境大臣政務官、タン ユネスコ教育担当事務局長補、武内国連大学上級副学長、地元選出国會議員、松浦前ユネスコ事務局長 ほか。



## エ. 挨拶

(ア) 大森雅夫 ESU に関するユネスコ世界会議岡山支援実行委員会会長(岡山市長) 挨拶 (要約)

世界各国からお越しいただきました参加者並びに関係者の皆様を心から歓迎申し上げます。岡山市では、世界会議の開催に向け、広く ESU の理念の普及啓発に努めてまいりました。その過程で学生が ESU の愛称を作り、それを取り入れた全国唯一の ESU 推進条例も制定されました。また、1 万人を超える方々からお寄せいただいたメッセージをフォトモザイクアートとして作成するなど盛り上がりつつありますが、国内では、ESU の認知度はまだ高いとは言い難く、今回の世界会議を通じて、ESU が早く『世界の文化』として定着することを願っております。



(イ) チェン・タン ユネスコ教育担当事務局長補 挨拶 (要約)

ステークホルダーの主たる会合を構成する 3 つの会議が、「国連 ESU の 10 年」の主要なアクターが集まるここ岡山市で開催されることは非常にふさわしいことだと思います。岡山市では公民館が ESU の活動のハブとして機能していることは非常に印象的でした。「国連 ESU の 10 年」の終わりは、ESU の終わりではなく、むしろ地球規模での ESU 実施にとって、新しい、また非常に重要な段階の始まりです。来週グローバル・アクション・プログラム(GAP)が愛知県名古屋市の会議にて正式に開始されます。GAP に貢献する全てのステークホルダーの方々に期待していますし、教育を通してより良い未来を創ることができるかと確信しています。



(ウ) 赤池誠章文部科学大臣政務官 挨拶 (要約)

ESU ユネスコ世界会議のステークホルダー会合の開催をお引き受けいただいたこと、準備にまい進した岡山市職員ほか関係機関の皆様にお礼申し上げます。ここ岡山には高校生から世界各地で ESU の実践を牽引している方まで幅広い世代の方々が集まっています。柔軟で斬新、そして実践的なアイデアが共有されることでしょう。ここ岡山で生み出された ESU への情熱のともしびを、皆であいち・なごやでの本会議につなげていきましょう。





(5) 写真で見る会議の一コマ  
ア. Student(高校生)フォーラム



ランチ



メッセージボード



配布物



受付・案内担当 (運営高校生)



おもてなし担当 (運営高校生)



機械・PC 担当 (運営高校生)



司会・進行担当 (運営高校生)



写真・記録担当 (運営高校生)



ファシリテーター担当 (運営高校生)

イ. 第6回ユネスコスクール全国大会



受付



小学生による開会宣言



国内交流実践事例発表





海外交流実践事例発表



ESD Rice プロジェクトの発表



ランチ



企業・団体による展示



企業、団体によるプレゼンテーション



岡山大学阿部副学長閉会挨拶

## ウ. ユネスコ ESD ユース・コンファレンス



オリエンテーション



記念撮影



ネットワーキングランチ



ポスター展示



全体会



## 7 関連会議

### (1) フォローアップ会合 ※詳細プログラムは「第二部 参考資料 21」参照

11月13日(木) 10時～17時 名古屋国際会議場（白鳥ホール、各分科会用会議室）

#### ア. 目的

- (ア) 円卓会議メンバー、国内の教育関係者、自治体、NGO/NPO 関係者、企業、ユース、有識者等に対して、ESD に関するユネスコ世界会議の主催者であるユネスコ事務局及び日本政府から、広く世界会議の成果をフィードバックすること。
- (イ) 2015 年以降、グローバル・アクション・プログラム(GAP) 及びあいち・なごや宣言の具体的な実施の方策を含め、日本国内における ESD の推進方策について議論を行うこと。特に、各関係者からの GAP コミットメントを踏まえ、国内における ESD のさらなる推進に向け、関係者間でどのような連携を図っていくかを議論すること。
- (ウ) 関係者の連携・協働により ESD の発展に向けた機運を高め、ESD 推進の意義を効果的に発信し、世界会議を機に広がった ESD への関心層が ESD の実践者となるよう促すこと。

#### イ. 主催等

主催：文部科学省

共催：環境省、外務省

#### ウ. 参加者

約 300 名

教育関係者、自治体、NGO/NPO、企業、ユース、有識者、その他 ESD 実践者等、ユネスコ事務局より 2 名、関係省庁

#### エ. 加藤重治 文部科学省国際統括官 開会・主催者あいさつ(要約)

今年は、2005 年から始まった「国連 ESD の 10 年」の最終年ではありますが、これからが本番という認識しております。フォローアップ会合の目的は、①世界会議の成果を報告すること、②国内における今後の ESD の推進方策についての議論を行うことです。主催者として本会合に期待する成果は以下の 3 点です。①多様なステークホルダーによる自立的な協働が促進され、地域づくりに発展させるきっかけとすること、②ESD の優れた活動を普及するハブ機能やネットワークの在り方の議論を深めること、③新たに ESD に関心を持った方が実際に行動するきっかけとなることです。是非、活発に議論いただき、今回の会合が今後の活動にとって有意義なものとなりますことを祈念いたします。



#### オ. セッション1: ESD ユネスコ世界会議の成果の共有

(報告者: スー・ヒャン・チョイ ユネスコ教育局指導・学習・教育内容部長)

今回の世界会議の主な成果は、国連 ESD の 10 年の報告書の発表、「あいち・なごや宣言」の採択、グローバル・アクション・プログラム(GAP)開始の正式発表です。これからの 10 年は ESD の更なるスケールアップと組織化を図る期間であり、GAP





の推進に当たっては、ユネスコや政府だけでなく、ステークホルダー主体でイニシアティブを進めていくことが重要です。「あいち・なごや宣言」は、様々なステークホルダーの下で、長いプロセスを経てまとめられました。特に、政府にESDの制度化を求めていること、ポスト2015年開発アジェンダにおける教育に関する目標にESDを位置付けるよう求めたことが注目されます。宣言と会議の結果は、2015年に開催される世界教育フォーラムでも取り上げられる予定です。

### カ. セッション2: ESDの今後の取組を語る ①

ESD世界会議の開催に向けて、ESD実践者の間では様々な会議やイベントが開催され、それぞれのステークホルダーによるステートメントがまとめられました。本セッションでは、そのうちの主なものが報告され、宣言・提言の作成過程、ポイントについての説明や、各ステークホルダーの役割、今後の方向性についても取り上げられました。また、関係省庁より今後のESD推進方策についての説明があり、その後、各代表者による意見交換が行われ、多様なステークホルダー間による連携の在り方について議論がなされました。

### キ. セッション3: ESDの今後の取組を語る ② ～分科会～

分科会1	学校におけるESD 推進	4号館白鳥ホール
分科会2-1	地域社会におけるESD 推進	2号館 2F 222
分科会2-2	地域社会におけるESD 推進	2号館 2F 223
分科会3	ユース・エンパワメント	2号館 3F 231
分科会4	ESDの担い手育成	2号館 3F 232
分科会5	ESD実践や教材、支援等の情報共有	2号館 3F 233
分科会6	関係者間ESD推進ネットワーク	2号館 3F ラウンジ



分科会の様子

### ク. セッション4: 統括会合

六つのテーマに分かれた各分科会から、それぞれの議論で出た課題と今後の展望について報告がありました。各分科会に共通して重要視されたのは、各ステークホルダー間の連携です。各テーマでの主な議論内容は以下のとおりです。

- ① 学校におけるESD推進: 制度による支援の必要性を確認するとともに、教員への支援(教員養成、負担感の払拭等)が重要。
- ② 地域社会におけるESD推進: 引き続きESDの普及を図るとともに、市民が参加しやすい環境づくりが必要。
- ③ ユース・エンパワメント: ユースが多世代と交流する機会を創り、ユースがリーダーシップをとれる環境づくりが重要。
- ④ ESDの担い手育成: ファシリテーションの楽しさを共有するとともに既存の取組をESDの取組として捉え直すことが重要。





- ⑤ ESD実践や教材、支援等の情報共有：ESDカフェ、ESDツアーの開催等、各対象者・目的等に狙いを定めたESDの「情報共有戦略」について議論。
- ⑥ 関係者間ESD推進ネットワーク：マルチステークホルダーのネットワークの位置付けや、ネットワークの主導者、機能等について話し合い、ネットワークづくりに関わる賛否について議論。

その後、各分科会から紹介された意見をグローバル・アクション・プログラム(GAP)の分野ごとに分類し、会場内で共有されました。

#### ケ. 小林正明環境省総合環境政策局長 閉会あいさつ(要約)

世界会議を通じて、これからのESDの取組の推進について、方向性が見えてきた一方、課題も見えてきたことを含めて、多くの実りがあったことを皆様と共有したいと思います。多様なステークホルダー間で議論を行う中で、「違い」を含めての絆、つながりを実感できたのではないのでしょうか。持続可能な社会づくりに向けては、ここに集まる私たちが、いろいろな場面や分野で持続可能な形で引き続き努力をしていかななくてはならないのです。このような機会が今後も継続していければと思います。今後、どのような形のネットワークを作るにしても、そこに魂を吹き込んでいくのは私たち全員の熱意と取組によるものであらうと思います。



## (2) ESD推進のための公民館 - CLC\*国際会議 ※Community Learning Centre の略

10月9日(木)～12日(日) 岡山コンベンションセンター、市内公民館

### ア. 目的

以下の三つを目的として開催しました。

- (ア) ESD推進における公民館とCLCの重要性を確認する。
- (イ) 公民館とCLCにおけるESDの好事例を共有し、成果と課題を議論する。
- (ウ) 持続可能な社会づくりにおける公民館・CLCのビジョンを討議し、その実現に向けた方策を提言する。

### イ. 主催等

主催：岡山市、公民館・CLC会議実行委員会、文部科学省

共催：ユネスコ アジア・パシフィック教育事務局(ユネスコ・バンコク事務所)、ユネスコ アジア・パシフィック科学事務局(ユネスコ・ジャカルタ事務所)、ユネスコ生涯学習研究所(UIL)、公益社団法人 全国公民館連合会

(協力：国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、日本公民館学会、日本社会教育学会)

### ウ. 参加者

約700名

### エ. 主な議題

岡山市を始め日本各地の公民館におけるESDの実践や、世界各国のCLC並びにノン・フォーマル教育の関係者の経験を互いに持ち寄って学び合い、共有し合うことで、持続可能な社会づくりにおける公民館・CLCのビジョンを見据え、その実現に向けた提言へつなげていくこととし

ました。

具体的には、全体会で地域に根ざした学びの役割と展望に関する基調講演と事例発表を共有した後、分科会にて「環境保全」、「防災・減災」、「収入向上・社会的起業・地域活性化」、「文化の多様性と対話・世代間交流」、「リテラシー」、「エンパワーメント」、「政策・マネジメント・スタッフの能力向上」について実践共有・ディスカッションした後、成果文書案検討ワークショップを経て成果文書「岡山コミットメント(約束)2014」を採択しました。

## オ. プログラム

(ア) 10月9日(木)

9時～10時	開会
10時30分～12時10分	基調講演
12時10分～13時	パネルディスカッション
14時30分～18時	事例発表
18時30分～20時	歓迎レセプション

(イ) 10月10日(金)

9時～13時	1～5分科会(公民館活動見学含む)
8時30分～13時	6・7分科会
14時～15時	1～7分科会(続き)
16時15分～18時15分	分科会報告まとめ
18時30分～20時	自由参加セッション
20時～	成果文書作成ミーティング

(ウ) 10月11日(土)

9時～11時	ネットワーク提案・成果文書案検討ワークショップ
10時～17時	サイドイベント
14時～14時30分	成果文書採択
14時30分～14時50分	講評
14時50分～15時	閉会挨拶
18時～20時	フェアウェルパーティー

※10月9日午後及び10日に、文部科学省が進める「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」の中間発表会を特別分科会として開催しました。

※10月12日はエクスカージョンを実施。

## カ. 成果 ※コミットメントは「第二部 参考資料 43～44」参照

草案の段階から透明で開かれた作成のプロセスを経た「岡山コミットメント(約束)2014 ～コミュニティに根ざした学びをとおしてESDを推進するために、『国連ESDの10年』を超えて～」が採択されました。質の高い教育、生涯にわたる学ぶ機会の提供、コミュニティに根ざした学びの重要性を再確認し、各国の教育関係者と協働した取組によって、ESD及び持続可能な開発のより広汎な目標達成につながるという基本的な考えを基にして、15の行動を約束しています。

### (3) 持続可能な開発のための高等教育に関する国際会議

11月9日(日) 9時30分～18時 名古屋大学豊田講堂

#### ア. 目的

「国連ESDの10年」を振り返り、高等教育機関による様々なイニシアティブがESDの促進に果たした成果を共有し、その教訓をもとに、2014年以降のさらなるESD強化に向けた高等教育機

関のコミットメントを再検討します。学びや知識開発と研究における革新的な実践を広め主流化していくことに重点をおき、高等教育機関の変革に向けての主要な課題と方策を明らかにします。国連持続可能な開発会議(リオ+20)の時に発足した、高等教育サステナビリティイニシアティブ(HESI)を始めとする高等教育機関による持続可能な開発への積極的な関与を議論します。

## イ. 共催

環境省、文部科学省、国連大学、名古屋大学

(協力: 国連教育科学文化機関(UNESCO)、国連経済社会局(UN DESA)、国連環境計画(UNEP)、国連グローバル・コンパクト責任ある経営教育原則(PRME)、国際大学協会(IAU))

## ウ. 参加者

約 750 名 (66 カ国)

## エ. 主な議題

全体会合のハイレベル・パネルディスカッションでは、機関包括的アプローチや多様なセクターを巻き込んだ取組の推進など、高等教育機関の変革において重要なテーマと持続可能な開発を加速する方策について議論しました。分科会では、パネルディスカッションで提起された様々な課題について更に掘り下げて議論すべく、参加者は、機関包括的アプローチのための能力開発、サステナビリティに関する評価の手法、分野・セクターを越えた連携、グローバル・アクション・プログラムに関する優先的研究課題、政策への関与、科学と政策のインターフェースの構築、高等教育とポスト 2015 年アジェンダなど 12 のグループに分かれ、知見や革新的なアイデアを共有し、より戦略的で有効な連携のあり方を議論しました。

## オ. プログラム

- |                     |  |
|---------------------|--|
| 9 時 30 分～10 時 30 分  | オープニング セッション   |
| 10 時 30 分～12 時 30 分 | セッション 1: ハイレベル・パネルディスカッション<br>パネルディスカッション 1 機関包括的アプローチ<br>パネルディスカッション 2 多様なセクターを巻き込んだ取組の推進 |
| 13 時 30 分～16 時 15 分 | セッション 2、3: 分科会<br>愛知学長懇話会主催 ESD 大学生サミット<br>[分科会と ESD 大学生サミットは同時進行]                         |
| 16 時 45 分～17 時 45 分 | セッション 4: 各分科会及び ESD 大学生サミットの報告   |
| 17 時 45 分～18 時      | クロージング セッション   |

## カ. 成果 ※宣言は「第二部 参考資料 45～46」参照

参加者により、「持続可能な開発のための高等教育に関する名古屋宣言」が採択されました。

この宣言は、持続可能な開発の追及において高等教育が果たすべき責任を再確認し、ESD を通じた持続可能な開発の更なる前進に向けて、高等教育のコミュニティが引き続き寄与することを約束しています。また、世界の指導者に対し、持続可能な開発に向けて変革を引き起こす高等教育の役割を支持するよう呼びかけ、変革のための学びと研究を促進することを宣言しています。